

# 熊本県熊本市立北部中学校

(様式4-2:2019年度)

モビリティ・マネジメント教育(交通環境学習)にかかわる学校支援制度 実施結果報告書

## 実施結果報告書

1. 学習名称:モビリティ・マネジメント教育(交通環境学習)					
2. テーマ:E S Dの視点立った活動の実施と道徳授業の研究					
3. 実施教科:道徳 特別活動 総合的な学習の時間					
4. 関連単元:はるとくんのひまわり					
5. 実施単元数:3時間					
6. 学年	全学年	7. クラス数	22学級	8. 生徒数	645名
9. 実施内容					
実施予定日	主な活動	対 象	その他		
夏休み中 始業式 8月27日 8月中 9月	○校区内の危険箇所探し ○向日葵の世話 ○自転車交通安全教室の実施 ○向日葵の種蒔き ○ビデオ作製 ○向日葵の種とり、配布準備	安全委員会 緑化委員会 全学年 1年生 安全委員会 安全委員会			
10月9日	○道徳I授業についての研究会 講師招聘	1学年道徳	・「はるとくんのひまわり」(第1次)の研究 ・京都で起こった交通事故について ・道徳授業づくり(教材化・実践授業) 内容項目「生命尊重」		
10月18日 「ESD研究発表」 の一環として	○道徳授業I(第1次事前) ○研究発表会(道徳授業I) ○安全委員会からの提案 (ポスターセッション)	1年6組 安全委員会	・ビデオ放映 ・ESD研究の一環 種に思いを込めてつなげよう		
11月9日(土)	○「はるとくんのひまわり」の種配布 ○親子道徳 1年道徳授業II実践 3年道徳授業I実践	全学年 各学年道徳	・はるとくんのひまわりを通して(第2次) ・3年 第2次 実践 ・3年 第1次 実践		
11月 11月 12月 1月~2月	○2・3年道徳授業II実践 ○自転車運転免許試験問題作成 ○講師招聘 試験問題作成 ○研究視察 ○研究視察	安全委員会 校長 及び教職員	・自転車運転免許制度の導入について考える ・自転車運転免許制度の導入		
2月	○自転車運転免許合格証 ステッカー作成	安全委員会			
3月	○自転車運転免許試験は 臨時休業のため次年度に実施	安全委員会			

10. 学習のながれ：

添付資料

- ①交通安全教室実施計画
- ②道徳Ⅰ「はるとくんのひまわり」学習指導案
- ③教材文
- ④ワークシート
- ⑤道徳Ⅱ「はるとくんのひまわりを通して」学習指導案
- ⑥活動の様子（写真）
- ⑦道徳論文

※学習で使った教材やワークシート、学習風景を撮影したビデオや写真、指導計画書などを添付して提出してください。

## 令和元年度 北部中学校自転車交通安全教室実施計画 (案)

健康教育部 交通安全係

## 1 目的

2学期のスタートにおいて、自転車安全教室を行い、交通安全への意識をより高める。  
熊本市より委託を受けた業者により、実際の事例などを用いた安全教育を実施し、  
ルールやマナーの重要性を認識させ、交通事故防止を図る。

## 2 期日

令和元年 8月 27日 (火) 5時間目 14:05~14:55

## 3 場所

北部中体育館

## 4 講師

テラバル自動車学校教官

## 5 準備

放送部 … マイクの準備を昼休みをお願いする

安全担当者 … パソコン・プロジェクター・スクリーン・ケーブル  
大型扇風機

## 6 日程

13:55~14:00 入場 (※休み時間から整列、入場)

(体育委員長、副委員長さんで整列の号令をお願いします)

14:05 開会 (司会 栗木)

① 講師紹介

② 動画で自転車交通事故の事例紹介

自転車安全利用五則について、自転車保険についてなど

(テラバル自動車学校教官 担当者)

③ お礼の言葉 安全委員長 野原大新君

14:50 閉会、諸連絡

退場 (体育委員長、副委員長さんで退場の号令をお願いします)

## 7 注意事項・その他

当日は、体育館内の気温が高くなることが予想されるため、学校に持ってきている水筒の持ち込みを許可します。適宜水分補給を行い、体調管理に気をつけるよう声かけを行ってください。

資料②

<授業のポイント>

「はるとくんのひまわり」の取り組みを知り、込められた「思い」について考えを深めることを通して、命の尊さ、自他の命を大切にすること、学んだことをもとに、日常生活を見直し、よりよく生きるためにできることを考え、実践していこうとする態度の育成を目指します。

第1学年6組 道徳科 学習指導案

○授業者：熊本市立北部中学校 松尾 卓郎

○日時：令和元年 10月 18日（金）第5校時

○学級：1年6組（33人）

○場所：3年 4組教室

1 主題名 つながる生命

<学習指導要領との関連>

- D-(19) 生命の尊さ 生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。

2 教材名 はるとくんのひまわり

- 地域の一人として、命の重さ、尊さを意識しながら、SDGsの11「住み続けられるまちづくりを」について考えることができる。

3 主題設定の理由

- (1) 災害や事故、病気など想定外のできごとのために、いつ命の灯が消えるかは誰にもわからない。今、生きていることが当たり前のことではなく、家族をはじめ多くの人々の思いや願いによって「自分が生かされている」ということに気づかせ、人は「一人で生きている」のではなく、誰もが「かけがえのない存在」であること、自他の存在を大切にすることが、命を大切にすることにつながることを理解させたい。

(2) 生徒の実態

本校は交通量の非常に多い道路に囲まれており、その中で自転車通学が5割（351名）を占めている状況である。生命を守るということ、安全な暮らしを心がけようとする意識や態度を養うことは、本校の重要なめあての1つである。交通安全への取り組みとして、緑化委員会の活動で「はるとくんのひまわりプロジェクト」に3年前から取り組んできている。

事前に実施したクラスの実態は、以下の通りである。（生徒数33人）

「はるとくんのひまわりプロジェクト」を知っていますか。	
はい (3人)	(知っている)
いいえ (29人)	委員会の放送を聞いた。緑化委員で活動した。
あなたは中学生になってから 登校中に交通事故にあいそうになったことはありますか。	
はい (16人)	壁にぶつかりそうになった。
いいえ (16人)	車にあたりそうになった。等
身近な人で、交通事故にあった人はいますか。	
はい (13人)	自分(5人) 友人(8人) 親族(3人) 自転車の自損事故、車と衝突など

### (3) 教材について

「平成 23 年 11 月、京都府南部に住んでいた東陽大（あずまはると）君（当時 4 歳）が交通事故で亡くなりました。生前、陽大君は幼稚園で育てていたひまわりの種を自宅に持ち帰っていました。ご両親は、陽大君が生きていた証としてそのひまわりを大切に育てていました。平成 25 年春、この交通事故を担当していた警察官が自宅を訪問したとき、ご両親から、「陽大が生きていた証を残したい。」「このひまわりがあちらこちらで咲けば、陽大もいろんな所へ行けると思う。」「もう交通事故は嫌です。」とそのひまわりの種を託されました。こうして、陽大君が生きていた証を残したいと願うご両親の思いと交通事故根絶の強い願いが「ひまわりの種」となって引き継がれ、平成 27 年には京都府内の警察署、幼稚園、保育園、小中高校、指定自動車教習所、各地域等で、平成 28 年以降は京都府内だけでなく全国各地で大輪の花を咲かせました。今年も多くの方々と、ひまわりを育てることを通じて、命の大切さと交通事故防止を伝える取組が行われています。」

このような取り組みを知ることを通して、ひまわりに込められた思いを知り、生命を大切にすることとはどういうことか、考えさせることができる教材である。

#### <身に付けたい7つの力との関連>

##### 【思考力】

- ① 批判的思考力
- ② 多面的・総合的思考力
- ③ キャリアプランニング力

##### 【姿勢・態度】

- ④ コミュニケーション力
- ⑤ 情報活用能力
- ⑥ レジリエンス（柔軟性）
- ⑦ シチズンシップ（市民性）

この教材では、②④⑦を意識した授業を構築したい。特に、④の「コミュニケーション力」について、「はるとくんのひまわりプロジェクト」について、いろいろな人の思いを考え、他の生徒の様々な意見を聞く活動を取り入れることで、物事を多面的・多角的に捉えさせたい。

## 4 指導計画と評価の視点（2時間取り扱い）

### (1) 指導計画

次	学習活動	時
1	道徳 ○はるとくんのひまわりプロジェクトを知る。 ○生命を守るために、自分たちにできることについて考え、生命尊重への学びを深める。	1時間 (本時)
2	道徳（モビリティ・マネジメント教育） ○生命の大切さを再認識し、交通安全に対する意識を高めることができる。	1時間

### (2) 評価の視点

- ・他の人の意見を聞いて命を大切にすることなどを多面的・多角的に考え、自分の意見を書いたり、発言したりしているか。
- ・命について、自分との関わりで考え大切にしようという気持ちを書いたり、発言したりしているか。  
(ワークシート・発言・観察)

## 5 本時の学習

### (1) 本時のねらい

「はるとくんのひまわりプロジェクト」の取り組みを知り、この取り組みに込められた家族の思いを  
考えることで、生命の尊さ、大切さについて深く考えることができる。

### (2) 展 開

過程	学習活動	○発問、指示 等 ※留意点 ・予想される生徒の反応	備考◆身に付けたい7つの力に関すること
導入 5分	1 本時の学習内容を知る。 アンケート結果を知る。	○何人かの生徒に発表させる。	
展開 43分 (20)	2 はるとくんのひまわりプロジェクトを知る。 ①教材文(事件の経緯)を範読する。 ②経緯を整理する。	○はると君は何歳ですか。 ○はると君が持ち帰った種はどんな種ですか。 ○帰宅したはると君は、何をしようと思いましたか。 ○お母さんはどうされていたのですか。	電子黒板 教材文
(10)	③はるとくんのご家族のひまわりに込められた思いを考える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     ひまわりプロジェクトに、はるとくんのご家族のどんな思いが込められているだろうか。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・命の尊さ</li> <li>・はるとくんの生きた証</li> <li>・交通事故が減ってほしい。</li> <li>・はるとくんをいろいろなところに連れて行ってやりたい。</li> </ul>	◆多面的・多角的思考力
(10)	④意見を出し合う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     自分が家族だったら、どの思いが1番強いですか。                 </div> <p>※意思決定することで、一人一人にその理由をもたせる。それを交流し問い返しをすることで、命のかけがえのなさ、周りの人に支えられている等の思考を引き出していく。</p> <p>※生徒が出した意見のキーワードを板書し、思考の可視化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生きているのは当たり前ではない。家族の悲しみははるとくんへの思い</li> <li>・命は一つしかない。家族の悲しみは大きい。</li> <li>・一人で生きているのではない。</li> <li>・生きたくても生きられない命もあるから、命の尊さを伝えたい。</li> </ul> <p>※お互い向き合わせて発言させる。 ※教師のコーディネートにより対話を深めていく。</p>	◆シチズンシップ ワークシート
(10)	⑤生命を大切にするために、私たちができることを考える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     命を大切にするために、私達ができることを考えてみよう。                 </div> <p>※考えをキーワードで示し、ロイロノートで表示させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はるとくんのことを考えて行動する。</li> <li>・交通ルールを守りたい。守ることで自分だけでなく、周りの人の命も守れるから。</li> <li>・自他の命を大切にしながら生活する。</li> </ul>	◆コミュニケーション力 タブレット
(3)	3 自分を見つめる。 ①今日の学びを書く。	○今日の学習を通して、気づいたことや学んだことを書きましよう。 ※自他の命を大切にしなければならないことに改めて気づかせたい。 ・命を輝かせるため、自分ができることをしていきたい。	★友達の意見を聞き、道徳的価値を多面的・多角的に考え、深めることができたか。(ロイロノート・発言) ★命について、自分との関わりで考え、大切にしようという気持ちを書いたり、発言したりしているか。(ワークシート)
終末 2分	4 教師の説話を聞く。	・生きていることが当たり前ではなく、多くの人々の思いや考えによって生かされているということを伝えたい。	

### 資料③

樹木が色づき始めた平成 23 年 11 月、京都府に住んでいた東陽大（あずまはると）君、当時 4 歳の男の子が、「いいに（兄）のところへ行く」と言って家を出ました。前日足を骨折していた母親は、子どもについて行くことができなかつたため、「端っこを歩きなさいよ。」と声掛けをしましたが、これが最後の言葉となりました。

自宅から、わずか 200m の所で、背後から重さ 2 トンの大型車に押しつぶされたのです。はると君はちゃんと道路の右端を歩いていました。1 時間半後に一つの命の灯火が消えました。この交通事故を担当した警部補は、霊安室で変わり果てた我が子と対面する両親を目の当たりにしました。

横たわる男の子、泣き崩れる母親、気丈に妻を抱える父親…

警部補の目からも止めどなく涙が溢れ出てきました。

捜査経過の説明のため、後日、警部補は被害者遺族宅を訪問しました。仏壇に手を合わせたとき、男の子の生前の写真が多く飾られているのを見て、警部補は、また自然と涙が溢れてきました。このとき母親から

「霊安室でも泣いてくださっていましたね。」

「はるとのために本当にありがとうございます。」

との言葉がありました。息子のために涙する警察官に感謝されていたのです。

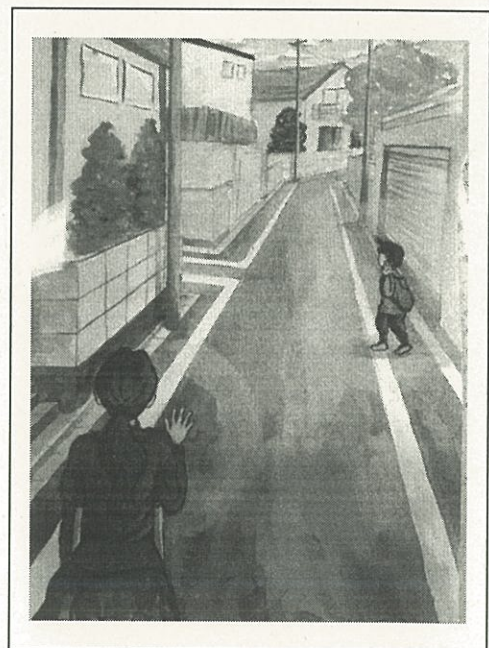
しかし、母親は、「私が一緒に付いて行っていたら。」「私が怪我をしていなければ。」「私のせいではるとは死んでしまった。」と、そのショックの大きさは計り知れないもので、精神的に大きなダメージを負ってしまいました。

当時、警察署の被害者支援要員でもあった警部補も、長期に亘り、親身になった遺族支援を行いました。

そうした中、裁判が終わったその夏、警部補が遺族宅を訪れたとき、遺族宅の庭に大きなひまわりが咲いていました。そのひまわりについて母親から

「はるとが事故に遭う前、幼稚園で育てていたひまわりの種を小さい手いっぱい握りしめ、自宅に持ち帰っていたもので、来年は一緒に植えようねと話していたもの。」

「生きていた証の形見と思い庭に植えたものです。」と聞かされました。



平成 25 年春、警部補が人事異動の挨拶で遺族宅を訪問したとき、御両親からひまわりの種を託されました。

こうして、その夏、警部補が自宅に大きなひまわりを咲かせたのです。

翌平成 26 年 3 月、警部補は亀岡警察署に異動となり、転入者スピーチではと君やひまわりのことについて話したところ、亀岡市でも平成 24 年に集団登校の列に無免許の少年が運転する車が突っ込み、死傷者多数の事故が発生していたこともあり、署員からのそのひまわりを育てて、亀岡から命の大切さや交通事故防止を発信しよう

という言葉を引きかけに、署前の花壇にひまわりの種をまくこととなりました。

亀岡署では、署員一丸となって肥料や水やり等の世話をを行い、その夏、高さ 2 メートルもの大きなひまわりを咲かせました。

このようにして、はると君のひまわりの種は亀岡署で大輪の花を咲かせ、たくさんの種が採れた訳ですが、この取り組みをもっと大きく広げ、命の大切さと交通事故防止を府民に訴えたいの思いから、亀岡署から本部犯罪被害者支援室がひまわりの種の引継ぎを受け、「ひまわりの絆プロジェクト」を始めました。

そして、全ての警察署や警察学校、多くの府民が訪れる運転免許試験場や病院等にひまわりの種を配布し、夏には見事な大輪の花を咲かせることとなりました。





資料④

教材名 はるとくんのひまわり 名前 (                    )	京都府警 の取組み
------------------------------------------	--------------

はるとくんのひまわりをしていますか。(        )名  
 中学生になってから交通事故にあいそうになった(またはあった)ことはありますか。(        )名  
 身近な人で交通事故にあった人はいますか。(        )名

考えて みよう	ひまわりプロジェクトには家族のどんな「思い」込められているだろうか。
------------	------------------------------------

考えて みよう	命を大切にするために、私達ができることを考えてみよう。
------------	-----------------------------

(キーワード)

(理由)

今日学んだことを書いてみよう。

---



---



---



---

自分への振り返り ○印をつけよう。

今日の授業の内容は	印象に残った	— — — —	印象に残らなかった
友達の意見や話し合いから、 新しい発見や気づきが	あった	— — — —	なかった
自分の考えを深めることが	できた	— — — —	できなかった
これから大切にしたいことが	わかった	— — — —	わからなかった

資料⑤ <授業のポイント>

本校で取り組んでいる「向日葵プロジェクト」の起こりを知り、生命の尊さについて深く考えさせます。かけがえのない命を守り、今後も安全な生活を持続させていくための取組について、生徒同士議論を通して生命尊重について多面的・多角的に考えさせます。本校が委員会活動として取り組んでいる向日葵プロジェクトのあり方について振り返り、プロジェクトの本来のねらいや趣旨を再認識させていきます。

### 第3学年4組 道徳科 学習指導案

○授業者：熊本市立北部中学校

主幹教諭 村田 裕子

～モビリティ・マネジメント学習～

#### 1 主題名 「はると君の向日葵」を通して (D 生命尊重)

- はると君の向日葵プロジェクトの起こりや、周囲の人々の様々な思いを知り、命の大切さを再認識し、身の回りの交通安全についての意識を高める。

#### 2 主題について

##### (1) 題材観

本校は校区が広く、自転車通学率が非常に高い。その一方で、交通事故に遭遇する生徒の数も多く、交通安全、事故防止のため、「はると君の向日葵プロジェクト」に、毎年委員会活動として取り組んでいる。このプロジェクトは恒例活動となっているが、そのプロジェクトの起こりや背景についてよく把握していないままプロジェクトに参加している生徒が多く、今後どのように継続させていくべきかについては、再考すべき点がある。はると君の向日葵プロジェクトの起こりや背景について、できるだけ事実に基づいて正確な情報を伝え、あらためて「生命尊重」の大切さに気付かせ、自分たちが取り組んでいるプロジェクトの課題点に気づかせたい。更に、大事な命と安全な暮らしを守るための具体的取組について、生徒同士の議論を生み出す「発問」を工夫し、多面的・多角的な考えを引き出すことで、生命尊重と安全な生活についての意識を高めさせたい。

##### (2) 系統観

本校の道徳教育での重点項目は「生命尊重」である。この内容項目について、今現在だけでなくこれから先の将来においても、生命の尊さについて考え、行動できる人づくり、街づくりを目指していくために、考え・議論する道徳授業の工夫・実践を行っていく。生命尊重についての道徳授業計画は、次の通りである。

<1学期>

「78円の命」生命の尊さと生命あるものを大切にすることについて考えることができる。

<2学期>

「はると君の向日葵」を通して生命尊重の視点から、安全な暮らしを持続させていくことについて考えさせる。

<3学期>

「白紙のドナーカード」脳死状態での臓器移植について考え・議論させ、命の重みについて考える。

##### (3) 生徒の実態

本学級の生徒は、明るく真面目な生徒が多い。学級全体の中で、自分の意見をはっきりと発言できる生徒がいる一方で、自分なりのしっかりした考えを持っているものの、全体の場で発表したり、自分の言葉で伝えたりすることを億劫に感じている生徒も少なくない。

今回の授業をするにあたって事前アンケートの結果は、以下の通りである。

① 交通事故にあったことがありますか。	はい ( 10人) ・ いいえ ( 25人)
② 家族が交通事故にあったことがありますか。	ある ( 15人) ・ いいえ ( 20人)
③ 交通事故に気をつけるために自分が心がけていることがありますか。 それはどんなことですか。	ある ( 31人) ・ いいえ ( 4人) ・ 周りを見る ・ 交通ルールを守る ・ 横断歩道が青でもよく見て渡る。・ 飛び出さない等
④ はると君の向日葵プロジェクトに参加したことがありますか。	ある ( 6人) ・ いいえ ( 29人)
⑤ はると君の事について知っていますか。	知っている ( 9人) ・ 知らない ( 26人)

### 3 指導観

この教材では、【思考力】の②、【姿勢・態度】の①、本校が目指す課題発見・課題解決能力の育成を目指した授業を展開したい。特に②については、道徳科における考え・議論する活動を通して、様々な多面的・多角的な考え方に触れ、生命の尊さについて考えさせたい。更に自分たちの身の回りにある課題に気付き、今後、その課題をどう解決していけば、意味ある持続可能な取組となっていくのか、生徒同士の議論を通して様々な考え方に触れさせ、よりよい解決策を考え、実践していこうとする意欲を育てたい。

### 4 題材の目標

- はると君の向日葵プロジェクトの起こりについての事実を知り、改めて生命の尊さについて気付くことができる。
- 考え・議論することを通して、いろいろな考え方があることを知り、課題解決のためのよりよい解決策について考えることができる。

### 5 題材の指導計画

#### (1) 指導計画

2時間取り扱い

次	学習活動	時
1	○「はると君の向日葵プロジェクト」についての事実を知り、改めて生命尊重について考えさせ、これまでの取組について考える。	1時間
	【モビリティ・、マネジメント教育】 ○大事な命を守るために、交通安全のための具体的取組について考えさせ、安全な暮らしをこれからも持続させていくために、自分たちが心がけなければならないことについて考えることができる。	1時間 (本時)

#### (2) 評価

- ① 恒例行事として取り組んでいる「向日葵の絆プロジェクト」についての事実を正確に把握し、改めて生命尊重について感じ取ることができたか。
- ② 命の尊さと、安全な暮らしを守るための取組の課題点に気付き、自分事として課題を捉え、自分の考えを発言し、他人の意見を聞くことで、多面的・多角的に考え、思考を深めることができたか。
- ③ 課題を解決するためにできることについて、自分事として捉え、よりよい改善策を考えることができたか。

## 6 本時の学習

(1) 目標、および評価は、上記と同じ

(2) 準備物

- ・ワークシート
- ・心の数直線
- ・ネームカード
- ・タブレット
- ・電子黒板
- ・向日葵(プランター植え)

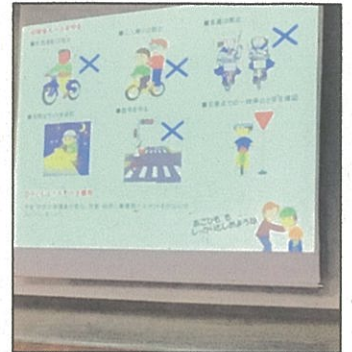
(3) 展開

過程	配時	生徒の学習活動と内容	教師の支援	備考 ◆身に付けたい力
導入	10	1 前時の授業について振り返る。 2 本校の交通事故、自転車事故の現状 向日葵プロジェクトについての本校 生徒の意識について、アンケートの 結果を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はると君の向日葵プロジェクトの起こりに                ついて思い出させる。</li> <li>・自分たちの身の回りの事実について知らせる。</li> <li>・本時のめあてを確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・向日葵</li> <li>・挿絵(紙芝居)</li> <li>・電子黒板</li> <li>・タブレット</li> </ul>
安全な暮らしをまもるために自分たちにできることを考えてみよう。				
展開	30	3 はると君の向日葵プロジェクトにつ いて今後どのようなことに注意して 続けていったらいいと思いますか。 4 事故をなくすために、「自転車運転 免許制度」の導入を行っている学校の 現状を知る。 (1) 自転車事故を減らすための方法を 考えてみよう。 (2) 取組について考えてみよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・託された種に込められた思いは何でしたか?</li> <li>・今後もプロジェクトを続けていく上で、ど                んなところを改善していったらいいですか</li> <li>・自転車事故を減らすために何かできること                を考えてみましょう。</li> <li>・ある自治体で自転車運転免許制度を取り入                れた例を紹介する。</li> </ul>	
		① 自分で考える。 ② 自分の考えを示す。 ③ 話し合う(全体議論) 10分 ④ 交通事故をなくすためにはどうす ればいいのでしょうか。 ⑤ 出された意見について意見を出し 合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・賛成</li> <li>・反対</li> <li>・自分事として本音の考えを引き出させる。</li> <li>・命を守る行動に心がけることを確認する。</li> <li>・グループで考えさせ、考えたことをタブレ                ット(ロイロノート)で示す。</li> <li>・グループの考えを発表させる。</li> </ul> <p style="text-align: center;">《評価②》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かけがえのない生命を守るために必要な事                を生徒の考えから押さえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート</li> <li>心の数直線 名前カード</li> <li>◆コミュニケーション力</li> <li>◆多面的・総合的に考                える力</li> <li>タブレット</li> <li>◆他者と協力する力</li> <li>電子黒板</li> </ul>
本校で「自転車運転免許制度」を導入することについてどう考えますか。				
まとめ	10	5 今日の学習を振り返る。 ・今日の学びをシートにまとめる。 ・今日の学びを発表する。 ・教師の話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日学習したことについて書かせ、いくつ                か発表させる。</li> <li>・生命の尊さ、命を大切にすることについて                教師の考えを伝える。</li> </ul>	

資料⑥



交通安全教室



はるとくんのひまわり



種蒔き



自転車運転免許試問題作成 (安全委員会) 講師招聘



## 資料⑦

### 研究テーマ

ESDの視点に立ち、「生きて働く道徳性」の育成を目指して  
～道徳科授業と特別活動・総合的な学習の時間と関連づけた実践～

熊本市立北部中学校 主幹教諭 村田 裕子

#### 1、主題設定の理由

熊本市立北部中学校は、ESDを学校教育目標の柱とし、教育課程の編成や指導方法の工夫改善を進め、持続可能な社会の創り手としての資質・能力や、持続可能な社会づくりに貢献できる生徒の育成を目指し、

- ①授業改善（各教科等に関するESDの実践研究）
- ②社会に開かれた教育課程（地域社会・行政・小中連携等）
- ③持続可能な社会の創り手としての資質・能力の育成（北部ESD7つの力）

の研究を行っている。

本校は非常に校区が広く、交通量の多い地域に在し、生徒の半数以上が自転車通学である。そのため交通事故に遭遇することも多く、いかに安全に通学させるかが本校の課題の1つである。

本校道徳科においては、本校の研究と校区の実態を踏まえ、重点内容項目を「生命尊重」とし、ICTを効果的に活用し、考え・議論する道徳授業実践、道徳授業と委員会活動（特別活動・総合的な学習の時間扱い）と関連させた生徒主体の活動を工夫・実践することで、ESDの視点に立った「生きて働く道徳性」の育成を目指し、研究・実践を進めてきた。

#### 2、研究の仮説

##### 仮説1

道徳授業において、ICT（タブレット）を効果的に活用し、生徒の興味・関心を喚起し、授業をより効果的に進め、生徒が日頃の委員会活動で取り組んでいる活動を道徳教材化し、考え・議論する道徳授業を工夫・実践することで、生徒の多面的・多角的な見方を育て、考えを広げ、深化させ、「生きて働く道徳性」を培うことができるのではないかと仮定する。

##### 仮説2

道徳授業での学びを委員会活動（特別活動・総合的な学習の時間）と関連づけ、SDGsに関連した探究活動につながる取組を工夫、実践することにより、授業での学びを生徒の活動や実生活に主体的に生かし、よりよい生活を持続させていこうとする生徒の意識を高めることができるのではないかと仮定する。

#### 3、実践・研究内容

- (1) 委員会活動として取り組んでいる活動を道徳教材化し、考え・議論する道徳授業実践
- (2) 考え・議論する道徳授業のためのICT(タブレット)の効果的活用の工夫
- (3) 道徳授業での学びを、委員会活動（特別活動・総合的な学習の時間）に生かす取組の工夫

#### 4、研究の視点

- (1) 京都で発生した交通事故事案を、「はるとくんのひまわり」として教材化する。
- (2) ICT（ロイロノート）の効果的活用の工夫
  - ・授業導入時のアンケート集計結果、挿絵の提示（生徒の興味・関心をひく提示の工夫）
  - ・生徒個人の考えを共有し、議論させるためのツールとしてロイロノートを活用
- (3) 安全な暮らしを守るための取組として、「自転車運転免許制度」の導入

## 5, 実践計画

●実施済 ○今後実施予定

	内 容	生 徒	活動時間
特別活動	●緑化委員会による「ひまわりの絆プロジェクト」への参加 はると君の向日葵を植え、育てる活動 ●安全委員会による、校区危険箇所のマップづくりと危険防止のためのプロモーションビデオの作成	委員会 学 級 委員会	委員会 活動 北部SDGs 総合的な学習
道徳①	●「はるとくんのひまわり」(D生命尊重 道徳) 資料1-①	全生徒	1時間
道徳②	●「はるとくんのひまわりを通して」(A節度、節制 道徳) 資料1-②	全生徒	1時間
特別活動 総合的な 学習の時 間	安全委員会による「自転車運転免許」制度実施 ○自転車運転免許のための問題づくり (探究活動 総合的な学習の時間) ○委員会活動の一環として「自転車運転免許」試験の実施 (特別活動) ○運転免許試験の採点・認定者の決定、自転車運転免許シールの発行	委員会  全生徒  委員会	北部SDGs 総合的な学習 特別活動 委員会活動

## 6, 実践の内容

## (1) 「はるとくんのひまわり」 教材化

本校の緑化委員会が取り組んでいる「ひまわりの絆プロジェクト」とは、平成23年に交通事故で亡くなった、当時4歳の東陽大君が、生前に家族と一緒に植えようと思い幼稚園から持ち帰った向日葵の種を、事故後に家族が大事に植え、その育てた向日葵からとれた種を、警察官が受け取った。警察官はその向日葵を警察署の花壇に植え、大輪を咲かせ、交通安全と命の大切さを伝えていく取組として全国でそのひまわりを咲かせる活動として広げたのが「ひまわりの絆プロジェクト」である。

本校では数年前から緑化委員会の活動として取り組んできたが、そのプロジェクトの内容や経緯を正確に知って取り組んでいる生徒は、1割以下であった。(R元、9月アンケート調査実施)内容や経緯を知らないまま、真面目に緑化活動に取り組んでいる本校生徒の実態があった。そこで「はるとくんのひまわり」の経緯を道徳教材として取り上げ、向日葵の種に「込められた思い」について考え・議論させることで、命の尊さについて深く考えさせる道徳授業を、全学級で実施した。

授業づくりにあたっては、京都府警にも相談し、事実を曲げずに授業化すること、インターネット等の公開されている資料に基づいて教材化すること、責任追及の授業にならないことに留意した。

## (2) ICT (ロイロノート) の効果的活用

本校は国立教育政策研究所 教育課程研究指定校事業「ESD」、熊本市教育委員会指定「教育課程」の指定を受けて研究を続けてきており、LTEタブレットを授業や学校行事等に積極的に活用している。特に授業や生徒の活動においては、アプリ (ロイロノート) を活用している。このアプリを道徳科の授業において、以下の2点で導入・活用することで、生徒の興味・関心を喚起し、生徒同士の議論の活性化を図るツールとして効果的な活用ができるように工夫した。

## ①アンケート結果と挿絵の提示

授業前に実施したアンケートの項目について、授業導入時で生徒に予集計結果を予想させてから、実際の結果を電子黒板に提示させるように、ロイロノートの画面を作成し提示した。(図1) 帯グラフを生徒の発言によって動かせるように工夫して作成し、生徒の興味関心を高めるようにした。

また教材文範読後に教材内容を整理する際に、場面背景を想像しながら整理していけるように、挿絵やチラシを画像化し電子黒板に提示させる。(図2) しかし電子黒板に画面をずっと提示させることはできないので、特に生徒に意識させておきたい大事な場面の挿絵は、黒板に貼付させた。(図3)

(この挿絵は、はるとくんの事故の経緯をもとに、本校の美術教諭に作成を依頼した。)

### (3) ②安全委員会による自転車運転免許制度導入

各学級で実施した道徳授業の実践をもとに、安全委員会が中心となり自転車運転免許制度を導入する。各学級で生徒が出した意見を参考に、安全委員会としての活動に導入することを生徒主体で決定し、自転車運転に関する一般常識や、自転車運転をする上で知っておくべき知識等をタブレットを活用し探究させ、自転車運転者として必要な情報や知識を運転免許の試験問題として作問させていく。(図8)

作成した問題を、自動車学校の教官を講師として招聘し指導・助言をもらい、より質の高い問題にしていく。(3学期1月に実施予定)生徒が作成・完成した自転車運転に関する問題(合計100問)は、タブレットや学校ホームページに掲載し、全生徒がいつでも勉強できるようにする。(3学期2月に実施)掲載された問題の中からいくつか問題を選択し、タブレットを活用して運転免許試験を実施する。採点后合格者には、自転車運転免許シールを作成・配布する。(3学期3月実施予定)シールは自分の自転車に貼り付けさせ、自転車事故撲滅を目指す取組とする。(図8)

この運転免許制度は、法的に拘束力があるわけではないが、本校生徒の自転車事故撲滅を目指すための意識付けとして、生徒の主体的活動としての取組とする。前期の安全委員会の活動として取り組んできた取組(校区の危険箇所マップづくり・プロモーションビデオの作成)を、更に発展させ「自分たちの安全は自分たちの力で」を合言葉に活動している委員会活動の一環として、今後も継続して取り組んでいく予定である。



安全委員会の活動

### (3) ③道徳授業「はるとくんのひまわり」と緑化委員会の活動を関連付け

道徳授業「はるとくんのひまわり」での学びを、緑化委員会が取り組んでいる「ひまわりの絆プロジェクト」と関連づけ、向日葵の種に込められた思いの大きさをしっかりと受け止めさせ、活動させていく。向日葵を育てるという活動に、生命尊重の心を込めさせるとともに、真実や背景を正確に知って活動していくことの大切さに気付かせるきっかけとする。

## 7. 成果と課題

私は今年度4月に本校の主幹教諭として赴任し、本校のESDの研究に途中参加することとなった。考え・議論する道徳授業の推進、ESDの視点に立った「生きて働く道徳性」の育成を目指すための取組の研究、既に本校が取り組んでいる「ひまわりの絆プロジェクト」を道徳教材化することを研究課題とし、現在も実践を続けているところである。本研究の成果としては、**資料2**で示しているように、授業後の生徒の感想等でしか把握できていない。これから3学期に予定している取組を実施し、次年度に実施する評価を分析することで、本研究の成果をまとめていく予定である。

私自身は、3年生で道徳授業を時々実施している。ICTを授業でただ活用するのではなく、考え・議論する道徳授業を進める上でのツールとしてのICTを効果的に活用する研究をしたことで、生徒の授業への興味・関心を喚起し、議論を活性化させ、多面的・多角的な考え方を促し、考えを深めることにつなげることができたと考える。また、授業での学びを、これからの自分の行動につなげていこうとする心情につながったと思う。



ひまわりの種まき

しかし、考え・議論する道徳授業を成立させるためには、安心して自分の考えを述べ、疑問点を質問したり、反論できる「学級集団づくり」が必要不可欠であり、道徳授業づくりの研究と並行して、集団づくりのための研究を、同時に進めていくことが必要である。

今後も道徳や教科、学級集団づくりについて継続して研究に取り組み、本校生徒の「生きて働く道徳性」の育成を目指し、持続可能な未来の担い手を育むESD教育を推進していきたい。



ベランダで育てた向日葵



資料1-②

- 「はるとくんのひまわりを通して」
- 本時の学習 準備物 ・ワークシート・心の数直線・ネームカード・タブレット ・電子黒板・向日葉(プランター植え)
- 展開

過程	生徒の学習活動と内容	教師の支援	備考
導入	1 前時の授業について振り返る。 2 本校の交通事故、自転車事故の現状 向日葉プロジェクトについて、アンケートの生徒の意識について、アンケートの結果を知る。	・はるとくんの向日葉プロジェクトの起こりについて思い出させる。 ・自分たちの身の回りや事例について知らせる。 ・本時のめあてを確認	◆身に付けたい力 ・向日葉 ・挿絵(紙芝居) ・電子黒板 ・タブレット
展開	3 はるとくんの向日葉プロジェクトについて今後どのようなことに注意して続けていってほしいかと思いませんか。	安全な暮らしをまもるために自分たちができることを考えてみよう。 ・読まれた欄に込められた思いは何でしたか？ ・今後もプロジェクトを続けていく上で、どんなところを改善していってほしいですか ・自転車事故を減らすために何かができることを考えてみましょう。	
	4 事故をなくすために、「自転車運転免許制度」の導入を行っている学校の現状を知る。 (1) 自転車事故を減らすための方法を考えてみよう。 (2) 質疑について考えてみよう。	・自転車事故を減らすために何かができることを考えてみましょう。 ・ある自治体で自転車運転免許制度を取り入れた例を紹介する。	
まとめ	本校で「自転車運転免許制度」を導入することについてどう考えますか。	賛成 ・反対	ワークシート 心の数直線 ネームカード ◆コミュニケーション力 ◆多面的・総合的に考える力 タブレット ◆他者と協力する力 電子黒板
	① 自分で考える。 ② 自分の考えを示す。 ③ 話し合う(全体議論) 10分 ④ 交通事故をなくすためにどうすればいいのでしょうか。 ⑤ 出された意見について意見を出し合う。	・自分事として自分の考えを引き出させる。 ・命を守る行動心がけられることを確認する。 ・グループで考えさせ、考えたことをタブレット(ロイロノート)で示す。 ・グループの考えを発表させる。 《挿絵②》 ・かがかえのいがい生命を守るために必要な事を生徒の考えから押さえる。 ・今日学習したことについて書かせ、いくつかが発表させる。 ・生命の尊さ、命を大切にすることについて教師の考えを伝える。	

資料2

【アンケート結果より】

- はるとくんのひまわりに関するアンケート調査から
- 本校は交通量の非常に多い道路に囲まれており、その中で自転車通学者が5割(351名)を占めている。本校の生徒は、生徒会活動への取り組みは大変意欲的であり、緑化委員会の活動の紹介で概略の説明をしているにも関わらず、はるとくんのひまわりの経緯について知っているのは、全校生徒の1割という状況であった。
- 授業は全クラスで実施後は、全生徒が「よく理解した、大体理解した」に○をつけた。
- 「ひまわりプロジェクトを今後続けていく中で、気をつけたいこと、心がけたいこと」に対する生徒の主な意見

- ・ひまわりをただ植えるのではなく、色々な人の思いや気持ち思い出しながら植えることが大切。
- ・命の大切さを考えながらプロジェクトに取り組むことが必要。
- ・心を込めて植えることが大切。  
・1つの命が犠牲になったということをお忘れなさい。
- ・はるとくんのことをまきちゃんと正確に知った上で取り組むことが大事だと思う。
- ・もっと広く、いろいろな人に「はるとくんのひまわり」のことを伝えていく。
- ・事故に気を付けること。命を大事にすること。・事故をおこなさないこと。
- ・被害者の気持ちに常に考えること。・安全運転  
・色々な人にも知らうために、地域で育てたり、種を配布したり、自分で育ててみたりと、何故この活動があっているのかを忘れないようにすることを心がけていく。
- ・途中でプロジェクトが途切れることがないように、責任もって大切に育てること。
- ・命の大切さを感じて、はるとくんの生きた証として大切にひまわりを育てたい。
- ・このプロジェクトができたきっかけや、続けていくことの意味を伝えていく。
- ・周囲にこのプロジェクトに興味を知らない人に教えていくことや活動を広めていくことを心がける。
- ・曖昧な情報を伝えることが大切。  
(授業後の生徒アンケートから 抜粋 ～原文～)

○これからの自分の行動について

- ・交通安全に気を付けること  
・相手の事を尊重すること (生徒の感想 抜粋 ～原文～)
- ・自分が被害者にも加害者にもならないようにする。  
・将来車を運転する時には交通ルールを守ること。
- ・まず自分からルールを守ること  
・はるとくんの事をしっかり覚えておきたい
- ・この学習を通して改めて命を大切にしようと思った。  
・しっかりとルールを守って生活していきたい。
- ・緑化活動でプロジェクトの事は知っていたつもりだったが、話の内容までは全く知らなかった。何事にも取り組むにあたっては、何故するのかを知ってから活動するべきだと感じた。人の心に親身になるということとは、少しでも相手の心の支えになるのだと知った。自分もそうやって思いやりを持って生きていきたい。

【考察】

- 授業を通して、交通安全に気を付けるという意識がより高まったこと、取組の意味を理解しないまま活動するのは意味がなく正しく理解してから活動に取り組むことの大切さ、心を込めて活動することが必要であること、気持ちを考えて取り組むこと、活動を絶やすことなく持続させていくことが大事である事等に、ほとんどの生徒が気づいてくれたことが大きな成果だったと思う。